

各教科の結果概要

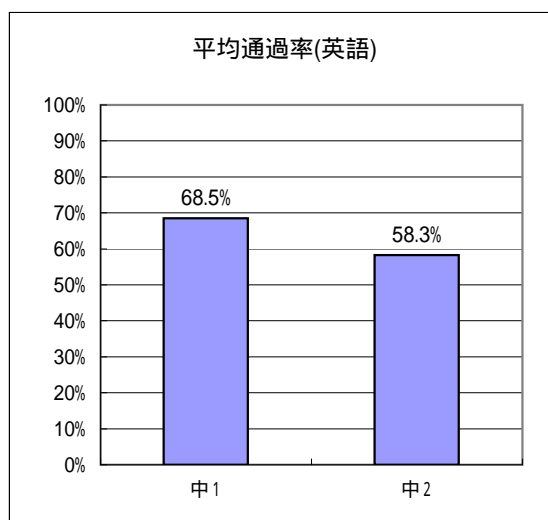
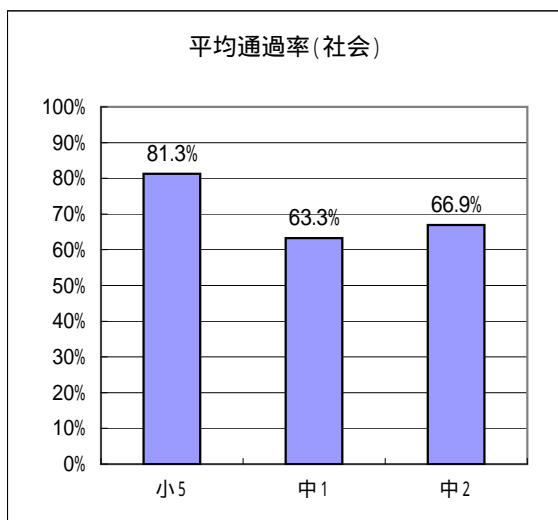
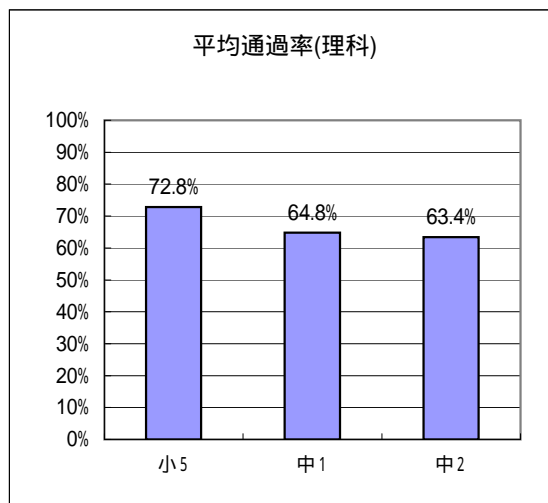
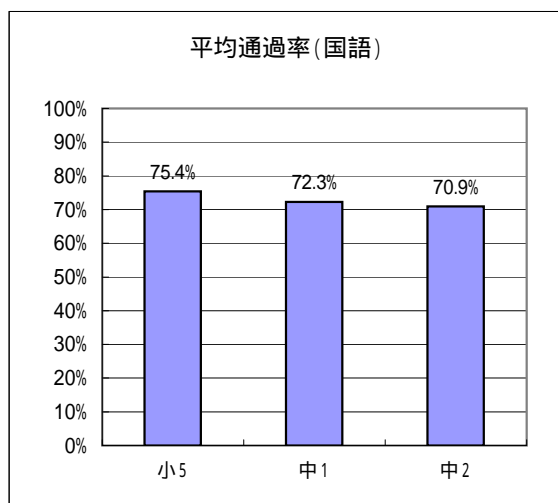
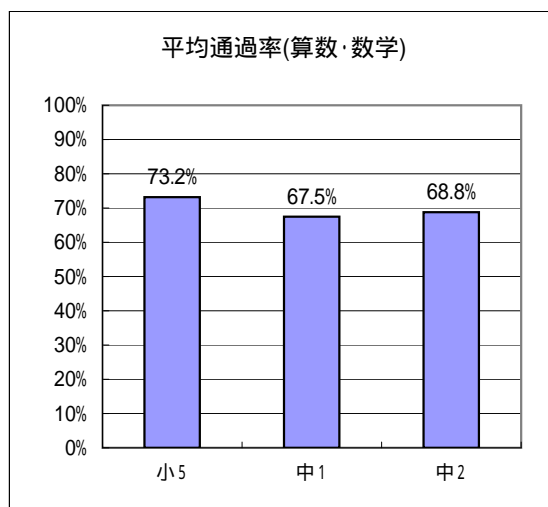
1 各教科の平均通過率(県全体)

ここでは、各教科ごとに調査実施学年の平均通過率を示しており、本県の「基礎・基本」の定着状況の概要を、教科・学年ごとに見ることができる。

昨年度と同程度の問題として出題したが、昨年度に引き続き、どの教科も総じて小学校が高く、中学校は教科・学年によっては低い傾向にある。

社会、理科において、中学校の第1学年と第2学年の差よりも、小学校との差の方が依然として大きい。中学校では、国語を除く4教科で通過率が70%に達しておらず、基礎・基本の定着に向けた一層の取組が必要である。特に通過率の低い内容・領域については、より具体的な授業改善に取り組む必要がある。

以下は、各教科における結果の概要である。



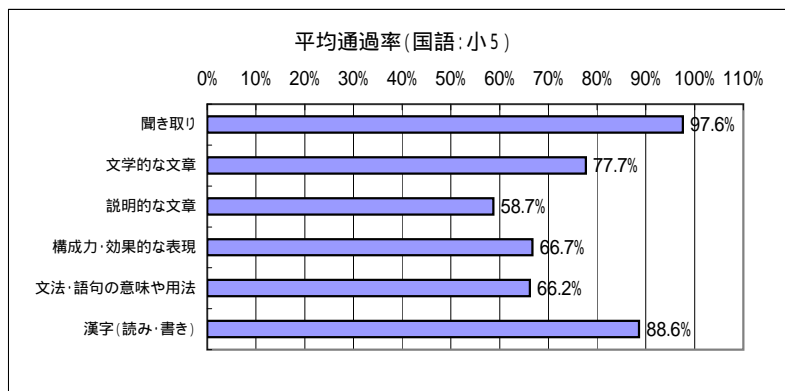
2 各教科の内容・領域及び観点別の平均通過率(県全体)

(1) 国語

ア 内容・領域別

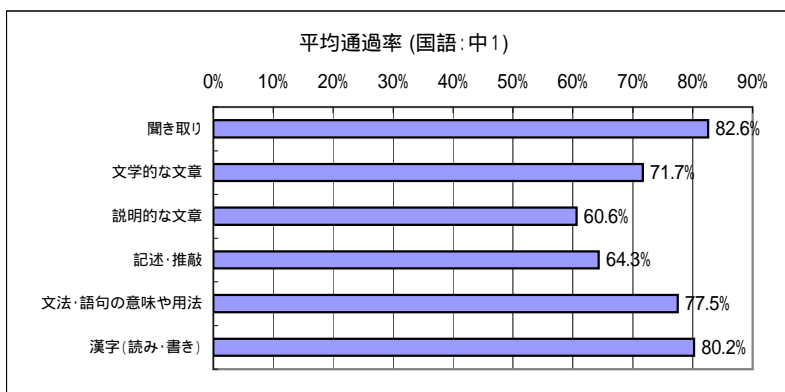
(ア) 小学校第5学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------------|-------|
| 聞き取り | 97.6% |
| 文学的な文章 | 77.7% |
| 説明的な文章 | 58.7% |
| 構成力・効果的な表現 | 66.7% |
| 文法・語句の意味や用法 | 66.2% |
| 漢字(読み・書き) | 88.6% |



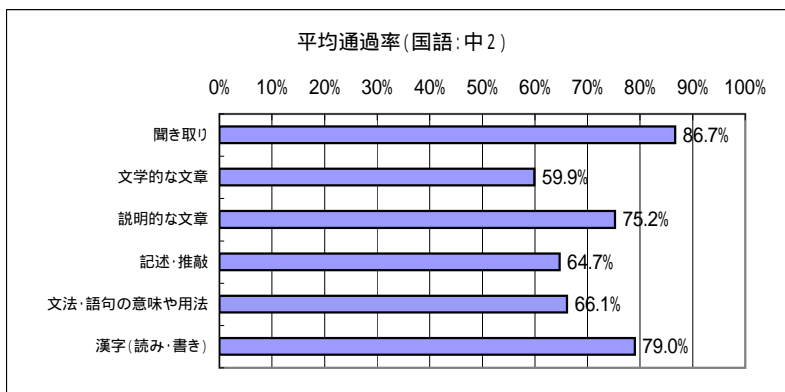
(イ) 中学校第1学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------------|-------|
| 聞き取り | 82.6% |
| 文学的な文章 | 71.7% |
| 説明的な文章 | 60.6% |
| 記述・推敲 | 64.3% |
| 文法・語句の意味や用法 | 77.5% |
| 漢字(読み・書き) | 80.2% |



(ウ) 中学校第2学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------------|-------|
| 聞き取り | 86.7% |
| 文学的な文章 | 59.9% |
| 説明的な文章 | 75.2% |
| 記述・推敲 | 64.7% |
| 文法・語句の意味や用法 | 66.1% |
| 漢字(読み・書き) | 79.0% |



小学校,中学校ともに,「聞き取り」「漢字(読み・書き)」の領域は概ね定着している。

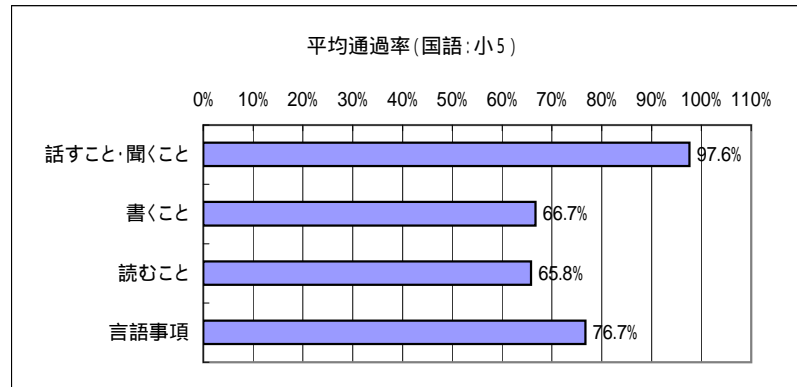
小学校においては,「説明的な文章」が約59%と低い。また,中学校では,第1学年で「説明的な文章」,第2学年で「文学的な文章」が低い傾向にある。小学校・中学校ともに,「説明的な文章」及び「文学的な文章」におけるそれぞれの目標や指導内容を明確にし,児童生徒の意欲や問題意識を喚起する授業の充実に加え,PISA型読解力育成の視点を意識した指導の工夫・改善に努めることがより一層求められる。具体的には,教材を読み筆者の意図や内容を解釈した上で自分の考えをまとめたり,自分の知識や経験に照らし合わせて思いを話したり,根拠をもって自分の考えを書いたり,発表したりする場を授業の展開の中に意図的・計画的に組み入れていく必要がある。

また,反対語,敬語,慣用句などに関心をもたせ,日常生活の中で使えるようにするとともに,図書館と連携した計画的な読書指導の推進などを通して,語彙力の向上を図る必要がある。

イ 観点別

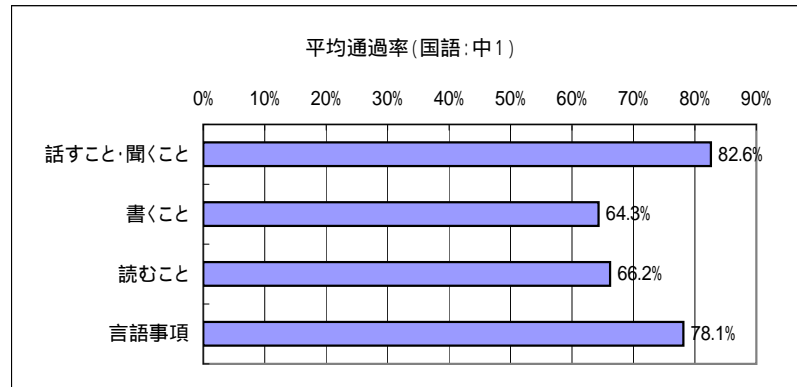
(ア) 小学校第5学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|---------|-------|
| 話す・聞くこと | 97.6% |
| 書くこと | 66.7% |
| 読むこと | 65.8% |
| 言語事項 | 76.7% |



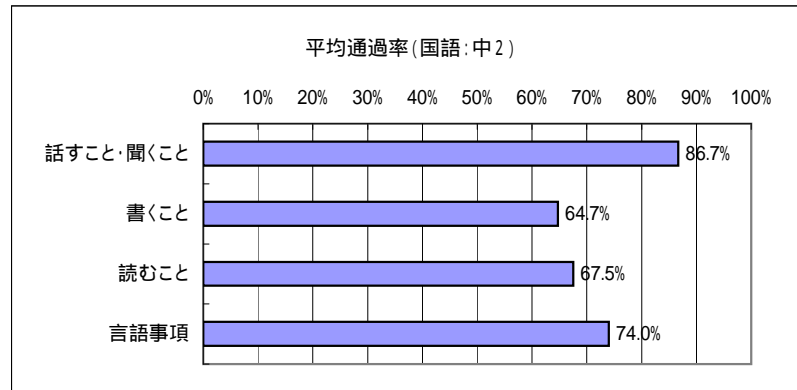
(イ) 中学校第1学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|---------|-------|
| 話す・聞くこと | 82.6% |
| 書くこと | 64.3% |
| 読むこと | 66.2% |
| 言語事項 | 78.1% |



(ウ) 中学校第2学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|---------|-------|
| 話す・聞くこと | 86.7% |
| 書くこと | 64.7% |
| 読むこと | 67.5% |
| 言語事項 | 74.0% |



「話すこと・聞くこと」については、小・中学校各学年ともに通過率が80%を超えている。また、「言語事項」についても、それぞれの学年も通過率が70%を超えており、小・中学校で定着に対する指導の成果が見られる。「書くこと」「読むこと」については、それぞれの学年も通過率が60%台と低くなっている。

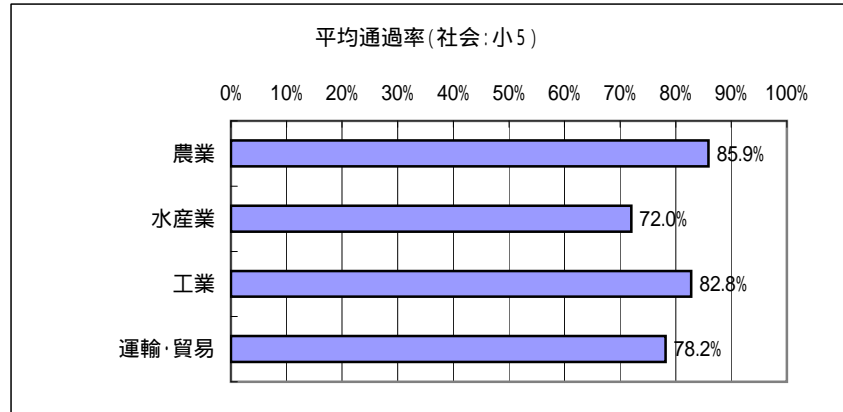
「書くこと」に関しては、目的意識や相手意識を明確にもたせ、すべての領域で書く場を設定したり、ある一定の分量の文章を書く機会を意図的に設定したりするなど、書くことの日常化を図る必要がある。また、「読むこと」においては、小学校段階から授業の中で音読や暗唱を取り入れ、読むことへの抵抗を軽減するとともに、叙述に即して言葉の意味を考えさせたり、発表させたりする言語活動を重視し、言葉を大切に扱う児童生徒を育てていく必要がある。

(2) 社会

ア 内容・領域別

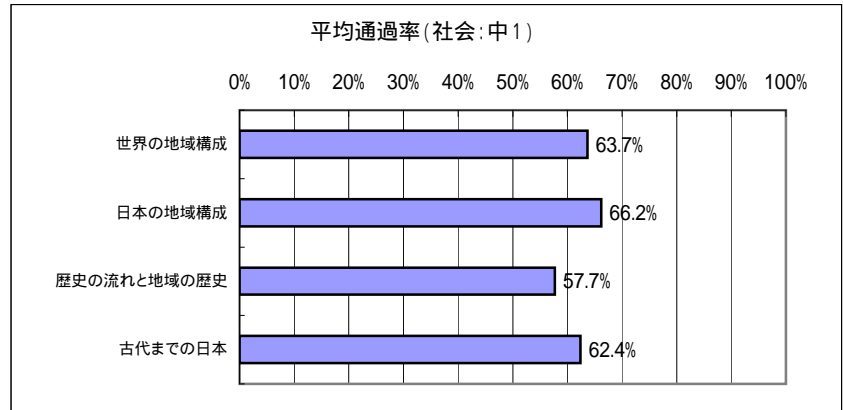
(ア) 小学校第5学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------|-------|
| 農業 | 85.9% |
| 水産業 | 72.0% |
| 工業 | 82.8% |
| 貿易 | 78.2% |



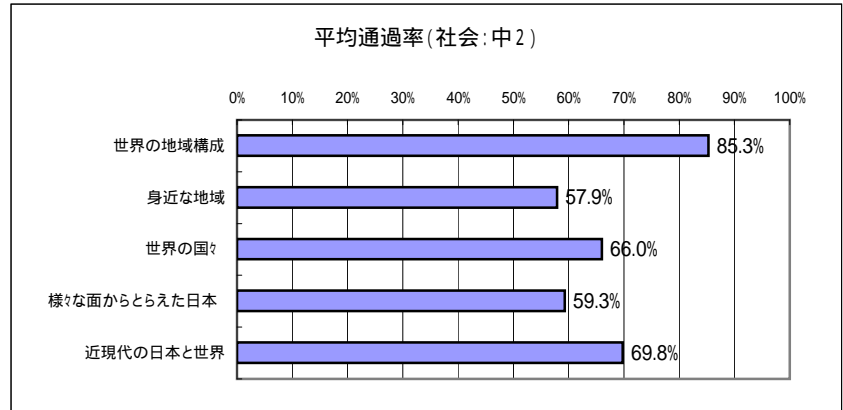
(イ) 中学校第1学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------------|-------|
| 世界の地域構成 | 63.7% |
| 日本の地域構成 | 66.2% |
| 歴史の流れと地域の歴史 | 57.7% |
| 古代までの日本 | 62.4% |



(ウ) 中学校第2学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|--------------|-------|
| 世界の地域構成 | 85.3% |
| 身近な地域 | 57.9% |
| 世界の国々 | 66.0% |
| 様々な面からとらえた日本 | 59.3% |
| 近現代の日本と世界 | 69.8% |



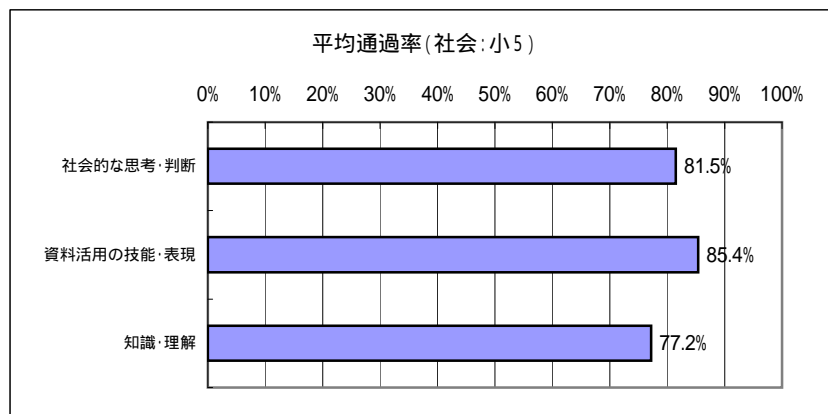
小学校の「水産業」については、昨年度と同じく他の内容・領域に比べ通過率が低かった。「水産業」の特色をとらえさせる際、教科書と関連付けながら、地図帳で海洋や海流を確認する指導、統計資料を活用して水産物の生産額を丹念に読み取る指導などを充実する必要がある。

中学校の地理的分野においては、地形図の実際の距離を問う問題、等高線や地図記号をもとに土地の様子を読み取る問題の通過率が昨年度に引き続き低い。実際に地図をもって現地に行き、具体的にとらえさせるとともに、繰り返し学習させる必要がある。歴史的分野においては、昨年度より高い通過率である。今後とも、単に暗記する学習でなく、時代背景、他の時代との相違点や共通点を明らかにして繰り返し学習させる必要がある。

イ 観点別

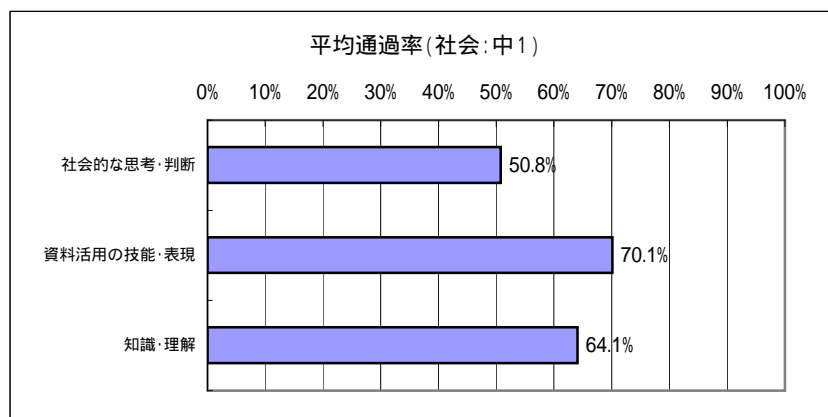
(ア) 小学校第5学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|------------|-------|
| 社会的な思考・判断 | 81.5% |
| 資料活用の技能・表現 | 85.4% |
| 知識・理解 | 77.2% |



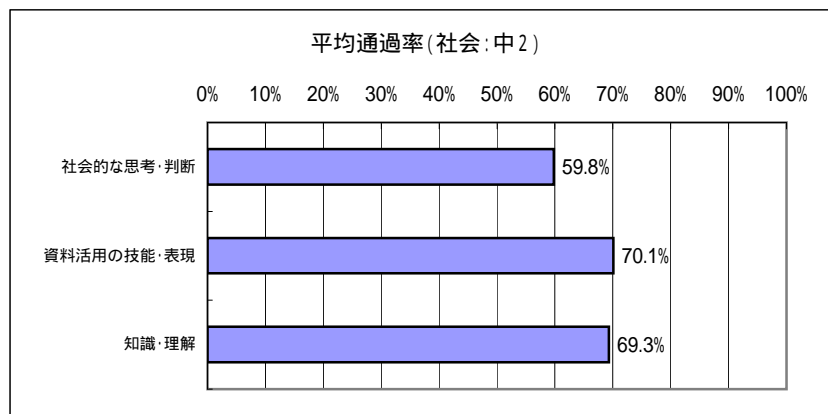
(イ) 中学校第1学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|------------|-------|
| 社会的な思考・判断 | 50.8% |
| 資料活用の技能・表現 | 70.1% |
| 知識・理解 | 64.1% |



(ウ) 中学校第2学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|------------|-------|
| 社会的な思考・判断 | 59.8% |
| 資料活用の技能・表現 | 70.1% |
| 知識・理解 | 69.3% |



小学校における「社会的思考・判断」「資料活用の技能・表現」は、80%を超える通過率である。「知識・理解」の通過率が、昨年度に引き続き他の観点よりも低い。地図や統計、その他の資料と教科書を常に関連付けながら、丹念に読み取らせたり、繰り返して指導したりするなどの工夫が必要である。

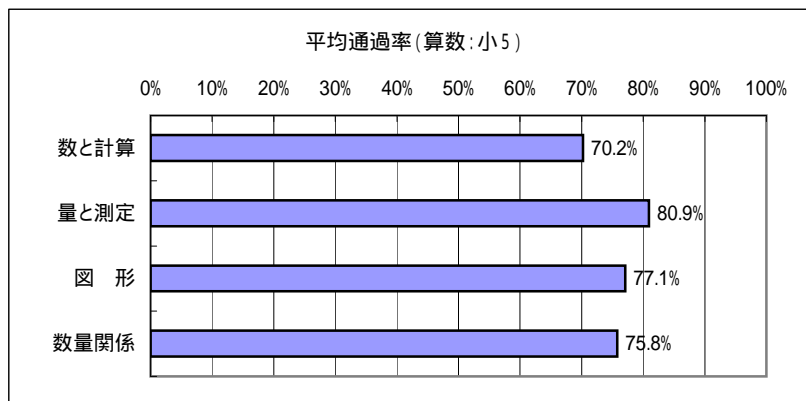
中学校における平均通過率は、両学年ともに「知識・理解」が昨年度より上がっている。しかし、「社会的な思考・判断」は、両学年ともに昨年度と同じく低い。今後とも、単に暗記させるのではなく、事象と事象を結び付けたり、生徒の身近な生活や地域の事象と関連付けたりして、地理的事象や歴史的事象の意味を考えさせ、より具体的に理解させる指導の工夫が必要である。

(3) 算数・数学

ア 内容・領域別

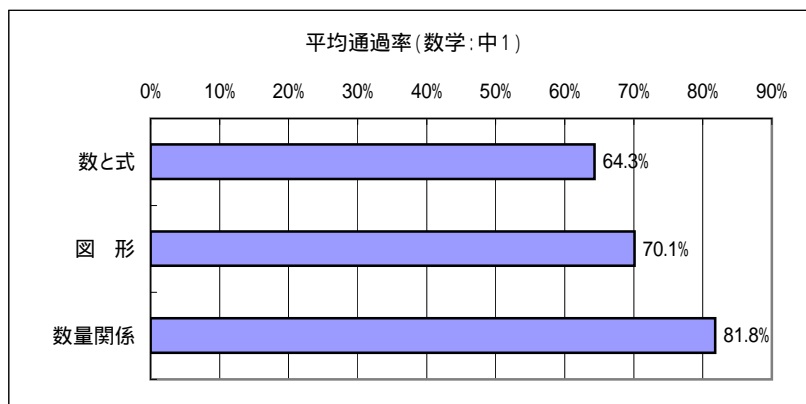
(ア) 小学校第5学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------|-------|
| 数と計算 | 70.2% |
| 量と測定 | 80.9% |
| 図形 | 77.1% |
| 数量関係 | 75.8% |



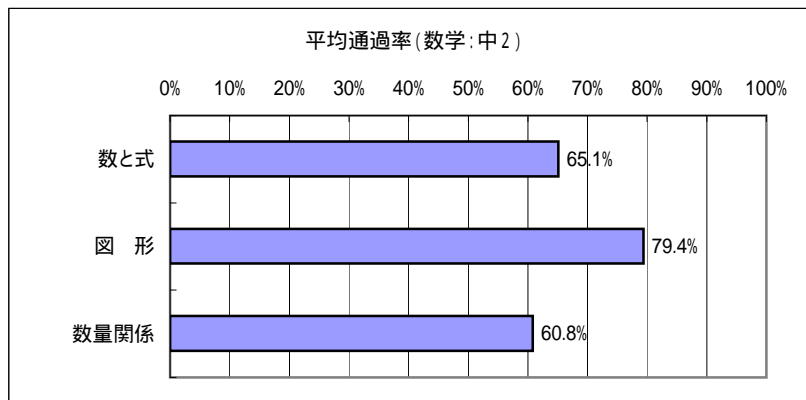
(イ) 中学校第1学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------|-------|
| 数と式 | 64.3% |
| 図形 | 70.1% |
| 数量関係 | 81.8% |



(ウ) 中学校第2学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------|-------|
| 数と式 | 65.1% |
| 図形 | 79.4% |
| 数量関係 | 60.8% |



小学校は、すべての内容・領域の通過率が70%を超えている。特に、「量と測定」の通過率は、80%を超えている。「数と計算」では、概数の計算及び文章題に合う事柄や関係を式に表すことの通過率が低い。文章題を絵や図、線分図等に表示して、立式に結びつける指導を繰り返し行う必要がある。

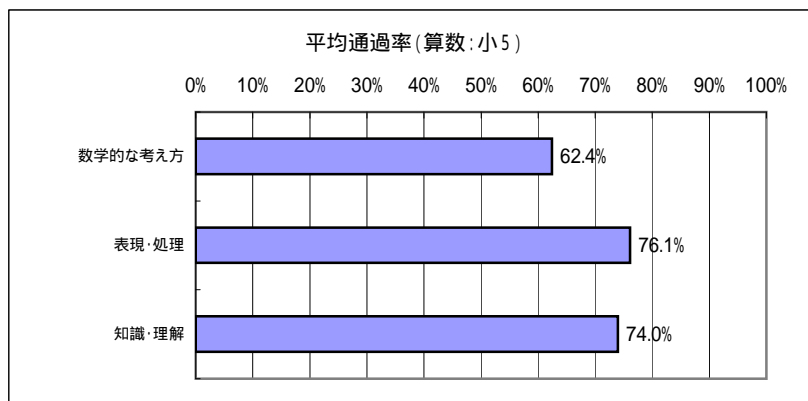
中学校は、第1学年では「図形」「数量関係」、第2学年では「図形」の通過率が70%を超えている。2学年とも「数と式」では、事象や文章題から数量関係をとらえて関係式や方程式を立式する問題や等式の変形問題の通過率が低い。また、第2学年の「数量関係」では、反比例(第1学年の学習内容)の関係式や対応表の問題の通過率が低い。

一般的に通過率の低い内容が固定化しているので、指導内容の重点化を図り、繰り返し指導する必要がある。

イ 観点別

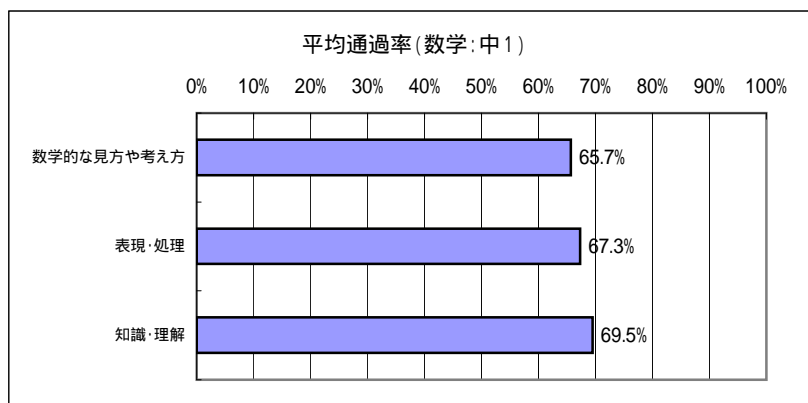
(ア) 小学校第5学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|---------|-------|
| 数学的な考え方 | 62.4% |
| 表現・処理 | 76.1% |
| 知識・理解 | 74.0% |



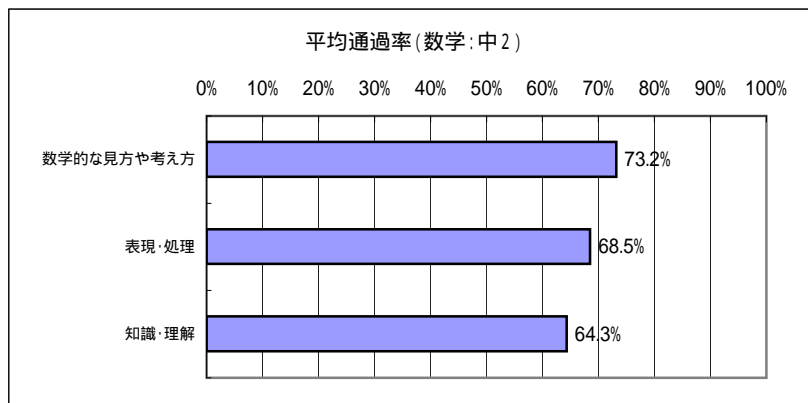
(イ) 中学校第1学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|------------|-------|
| 数学的な見方や考え方 | 65.7% |
| 表現・処理 | 67.3% |
| 知識・理解 | 69.5% |



(ウ) 中学校第2学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|------------|-------|
| 数学的な見方や考え方 | 73.2% |
| 表現・処理 | 68.5% |
| 知識・理解 | 64.3% |



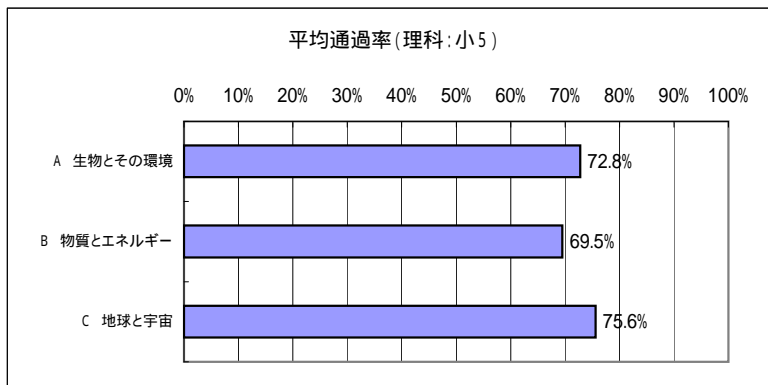
小学校は、「表現・処理」「知識・理解」は概ね定着しているが、「数学的な考え方」の通過率が低い。文章題から数量関係の式をよみとる問題については、文章題を絵や図で表す、線分図で表すなどの手順を踏んで、数量関係を視覚的に表す方法を工夫して関係式を導き出すなど時間をかけて指導する必要がある。

中学校は、第2学年で「数学的な見方や考え方」の通過率が70%を超えたものの、他は70%に至っていない。「知識・理解」では、第1学年の辺と垂直な面、第2学年の多項式の次数の問題の通過率が低い。これらは、学習したあとに関連する内容が出てこないため、定着率が低くなる傾向があり、定期的に復習させる必要がある。

学習内容に応じて、ドリル的に習熟を図ったり、算数的・数学的活動を取り入れ十分に考えさせたりするなど、指導の工夫をする必要がある。

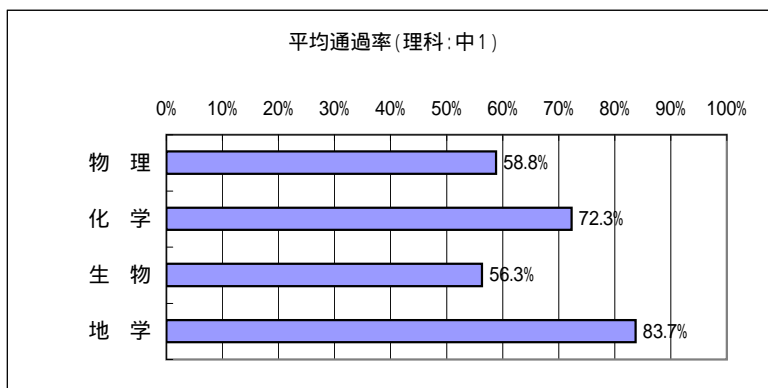
(4) 理科
 ア 内容・領域別
 (ア) 小学校第5学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|------------|-------|
| A 生物とその環境 | 72.8% |
| B 物質とエネルギー | 69.5% |
| C 地球と宇宙 | 75.6% |



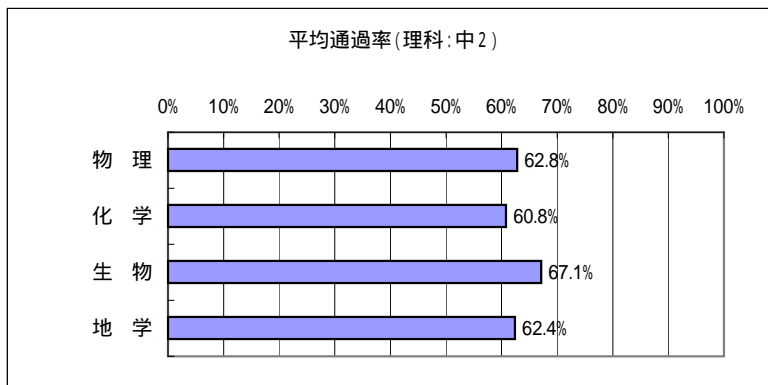
(イ) 中学校第1学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------|-------|
| 物理 | 58.8% |
| 化学 | 72.3% |
| 生物 | 56.3% |
| 地学 | 83.7% |



(ウ) 中学校第2学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------|-------|
| 物理 | 62.8% |
| 化学 | 60.8% |
| 生物 | 67.1% |
| 地学 | 62.4% |



小学校は、ほとんどの領域で70%を超える通過率であり、昨年度、不十分な点が見られた「生物とその環境」の植物の成長の条件に関しては改善が見られた。一方、「地球と宇宙」では、温度と水の変化の水蒸気に関する理解が16%弱にとどまり、指導法の見直しが求められる。

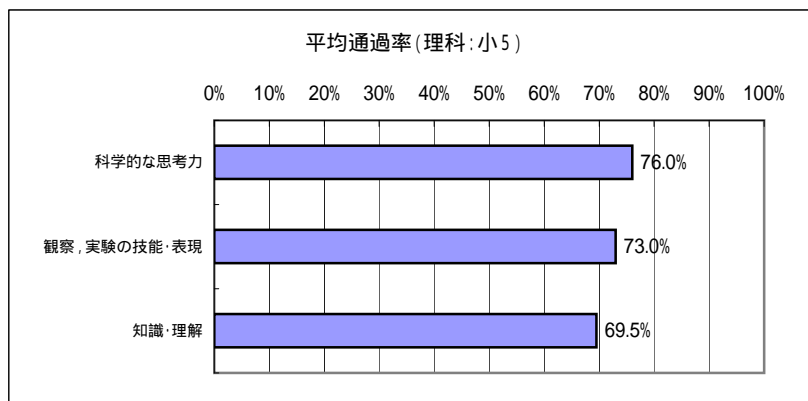
中学校では、過去2年間の課題であった「化学」領域において、両学年ともに通過率が10%程度上がった。特に、第2学年の原子、分子のモデルによる化学変化の理解が改善されつつある。一方で、「物理」領域に関しては、第1学年の光、音の理解が未だ不十分である。特に、像ができる条件の理解が不足しており、観察・実験を通して規則性を実感させることが大切である。

小学校、中学校ともに、目にみえない現象の理解が課題であり、観察・実験での児童生徒の視点づくりやモデルを活用した概念形成等、指導の工夫が求められる。

イ 観点別

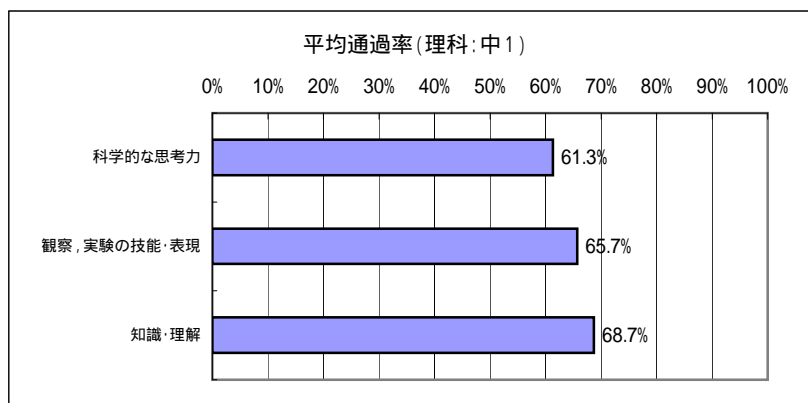
(ア) 小学校第5学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|-------------|-------|
| 科学的な思考力 | 76.0% |
| 観察、実験の技能・表現 | 73.0% |
| 知識・理解 | 69.5% |



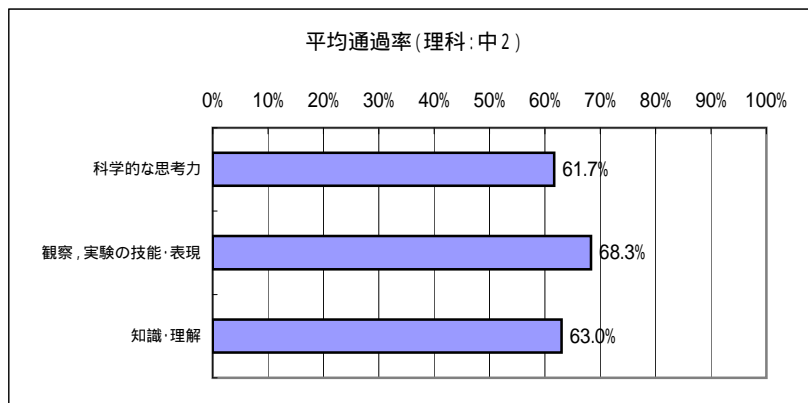
(イ) 中学校第1学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|-------------|-------|
| 科学的な思考力 | 61.3% |
| 観察、実験の技能・表現 | 65.7% |
| 知識・理解 | 68.7% |



(ウ) 中学校第2学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|-------------|-------|
| 科学的な思考力 | 61.7% |
| 観察、実験の技能・表現 | 68.3% |
| 知識・理解 | 63.0% |



小学校は、昨年と比べ「科学的な思考力」に伸びが見られた。対照実験において、条件統一、制御等の考え方の定着が図られてきている。一方で、「観察、実験の技能・表現」については73%の通過率であったが、顕微鏡や上皿てんびんの基本的な操作の通過率が低くなっており、操作順序の意味理解及びパフォーマンステスト(実験に関する技能テスト)による技能の定着を確実に図る必要がある。

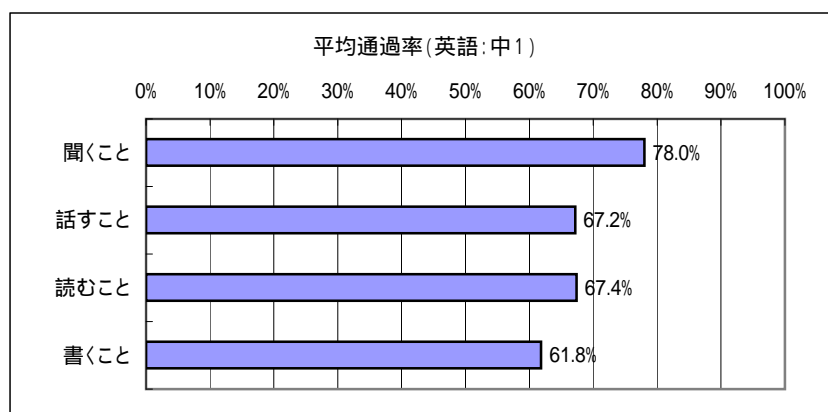
中学校では「科学的な思考力」が下がった。問題解決的な学習において、観察、実験の目的と解決するための方策との関連が明確に理解できていない面がある。観察・実験の過程で、絶えず、「今、何のために、どのような実験をしているのか」を生徒にフィードバックさせることが、科学的な思考力の育成と確実な理解につながる。また、両学年ともに「観察、実験の技能・表現」の定着が不十分であり、作図の不正確さ、グラフの読み取り方について重点的な指導が必要である。

(5) 英語

ア 内容・領域別

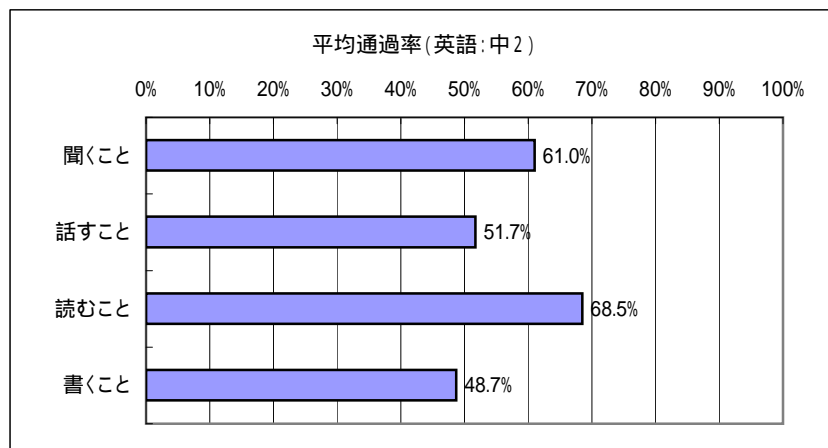
(ア) 中学校第1学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------|-------|
| 聞くこと | 78.0% |
| 話すこと | 67.2% |
| 読むこと | 67.4% |
| 書くこと | 61.8% |



(イ) 中学校第2学年

| 内容・領域 | 平均通過率 |
|-------|-------|
| 聞くこと | 61.0% |
| 話すこと | 51.7% |
| 読むこと | 68.5% |
| 書くこと | 48.7% |



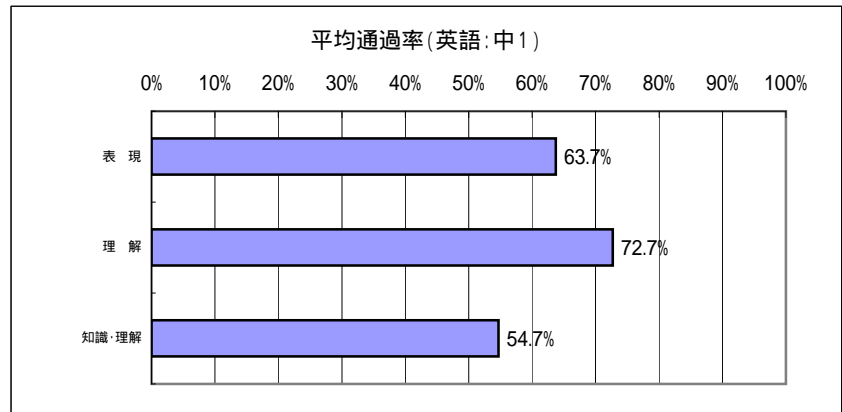
第1学年については、「聞くこと」が高く、「書くこと」が低い。「聞くこと」については、8割近い通過率であり、あいさつや身近なものの説明、初歩的な自己紹介等についての理解する力はある程度ついていると考えられる。しかし、「書くこと」については、日本語には表れない代名詞や主語と動詞の関係などの運用が十分でなく、文脈の中で正確に表現するに至っていない。また、自己紹介を3文以上で書く問題では、自分の名前を正確な英文で書ける生徒は80%に満たない。音声と文字を結びつける練習が必要である。

第2学年については、「読むこと」がやや高く、「書くこと」が低い。「聞くこと」については対話の概要を聞き取る力はあるが、相手の問いに慣用句などで応答することができない。授業中の対話活動で実際に使いながら覚えさせる必要がある。「読むこと」については、7～8文の平易な英文の内容を読み取る力がある程度つきつつある。「書くこと」については、通過率は48.7%であり、基礎的な語を使いこなす力や英文を自分で組み立てる力が不十分である。自分の好きなことについて正確に3文書ける生徒が26%にとどまっていることを併せて考えれば、新出の文型を音声で内在化させる練習や既習の文型を使って文単位として正確に表現する活動が必要である。

イ 観点別

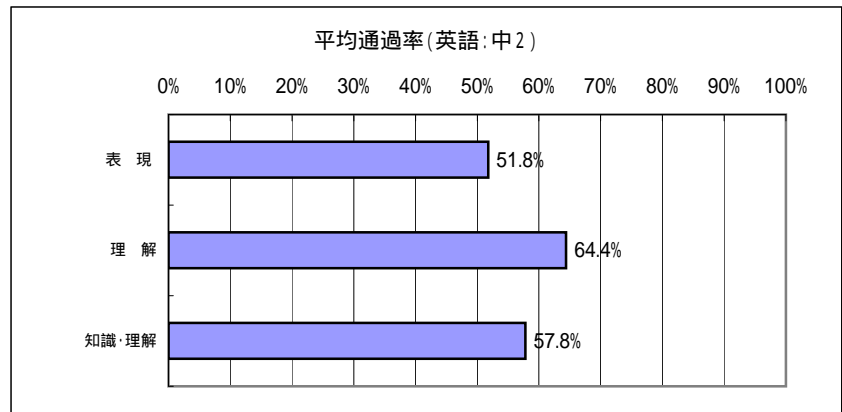
(ア) 中学校第1学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|----------------|-------|
| 表現 | 63.7% |
| 理解 | 72.7% |
| 言語や文化に関する知識・理解 | 54.7% |



(イ) 中学校第2学年

| 観 点 | 平均通過率 |
|----------------|-------|
| 表現 | 51.8% |
| 理解 | 64.4% |
| 言語や文化に関する知識・理解 | 57.8% |



第1学年の「理解」については、限られた範囲ではあるが理解する力が定着していると考えられる。また、「表現」についても、自己紹介を3語程度の英文で書くことが63.7%とある程度の力がついていると考えられる。しかし、「言語や文化に関する知識理解」は、54.7%と低く、疑問文の理解とその応答や、be動詞や doesn't を用いた否定文の作り方など、英文の基礎的な事項の理解が不足している。

第2学年は、「理解」について昨年度より若干伸びがみられる。聞いたり、読んだりした中から必要な情報を取り出すことは、抵抗感も少なく、ある程度力がついていると考えられる。「表現」に関する通過率は依然として低い。特に、4～5語の語順を問う問題や日本語の内容に適する英語を書き入れる問題等で定着が不十分である。自分で書く内容や表現方法を選択できるトピック指定問題では、無答率が24.2%と依然高い。

第1学年・第2学年ともに、既習文型、新出文型にかかわらず場面に応じた口頭練習を通じて表現を定着させた上で、正確に英文を書く練習をする必要がある。